

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 6 部門第 2 区分  
【発行日】平成 17 年 8 月 18 日 (2005.8.18)

【公開番号】特開 2003-227942 (P2003-227942A)  
【公開日】平成 15 年 8 月 15 日 (2003.8.15)  
【出願番号】特願 2002-27374 (P2002-27374)  
【国際特許分類第 7 版】  
G 0 2 B 6/00  
【F I】  
G 0 2 B 6/00 3 9 1

【手続補正書】  
【提出日】平成 17 年 2 月 4 日 (2005.2.4)  
【手続補正 1】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】特許請求の範囲  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【特許請求の範囲】  
【請求項 1】

コアと該コアの外周に形成されたクラッドからなるプラスチック光ファイバ素線の外周に、一次被覆層が設けられたプラスチック光ファイバケーブルであって、

前記クラッドは、ビニリデンフロライド単位とテトラフルオロエチレン単位とヘキサフルオロプロピレン単位とからなり、23 におけるショア D 硬度 (ASTM D 2240) の値が 59 以下である 3 元共重合体から形成される最外層を少なくとも有し、

前記一次被覆層は、末端アミノ基の含有量が  $20 \sim 300 \mu\text{eq/g}$  であり、末端カルボキシル基の含有量が  $16 \mu\text{eq/g}$  以上であるポリアミド系樹脂を含有するポリアミド系樹脂材料から形成される最内層を少なくとも有することを特徴とするプラスチック光ファイバケーブル。

【請求項 2】

前記 3 元共重合体は、ビニリデンフロライド単位 37.01 ~ 92 モル%と、テトラフルオロエチレン単位 0.01 ~ 55 モル%と、ヘキサフルオロプロピレン単位 4.0 ~ 22 モル%とからなり、

アッペ屈折率計で測定したナトリウム D 線による 23 での屈折率が  $1.350 \sim 1.385$  であることを特徴とする 請求項 1 に記載のプラスチック光ファイバケーブル。

【請求項 3】

請求項 1 または 2 に記載のプラスチック光ファイバケーブルの少なくとも一端の一次被覆層に、プラグが固定されていることを特徴とするプラグ付き光ファイバケーブル。